



®環境省
エコアクション21

認証番号：0012347

環境活動 レポート



2020.4.1~2021.3.31



有限会社
藤中電設



未来を豊かに



はじめに

わたしたち藤中電設はライフラインを支える事業を通して、社員とその家族の未来、お客様の未来、地域の未来を豊かにすると共に、企業として当事者意識と責任を持って環境活動を推進し、持続可能な社会実現に向けて積極的に取り組んでまいります。

目次

はじめに（目次）	2
環境方針	3
沿 革	4
私達のあゆみ	5
環境管理システム	6
対象範囲、レポートの対象期間と発行日	7
主な環境負荷の実績と目標	8
環境経営計画の取組結果と次年度の取組計画	9
電力使用量の削減と節電	9
使用燃料の削減	10
水道使用量の削減	11
廃棄物排出量の削減	12
産業廃棄物排出量の削減	13
緑化活動と社会貢献活動	14
環境に配慮した工事	15
エネルギー使用量の中長期目標（原単位）	16
その他の取組	17
環境関連法規	18
次年度の環境活動計画	19
全体評価と見直し	20

環境方針

基本理念

有限会社藤中電設は、地球で活動する企業として当事者意識を持ち、持続可能な社会の実現と美しい地球や故郷の自然環境を次世代に引き継ぐため、全社員一丸となって環境活動に取り組みます。

基本方針

- ① 環境関連法及び条例等を遵守します。
- ② 建設工事に関わる各段階において、環境負荷の少ない事業活動を行います。
- ③ 社用車両の燃料使用抑制に努め、二酸化炭素排出量を削減していきます。
- ④ 省エネルギー・節電に努め、二酸化炭素排出量を削減していきます。
- ⑤ 建設工事及び事務所における廃棄物排出量の削減及びリサイクルを推進します。
- ⑥ 建設工事及び事務所における節水活動により、水使用量を削減します。
- ⑦ 環境に配慮した物品を調達する「グリーン購入」を推進します。
- ⑧ 環境に配慮した工事を推進します。
- ⑨ 道路清掃及び環境美化活動に積極的に取り組みます。
- ⑩ 環境活動レポートを毎年作成し、外部公表します。
- ⑪ これらの環境方針は社員全員に周知徹底し、一丸となって取り組みます。

制定日 平成29年5月31日
有限会社 藤中電設
代表取締役 藤中昭宏

沿 革

組織の概要

1. 事業所名 有限会社 藤中電設
代表者 代表取締役 藤中昭宏
2. 所在地 神田事務所 高知県高知市神田2231-5
長浜事務所 高知県高知市長浜1608-3
3. 事業内容 電気工事業・機械器具設置工事業
高知県知事許可（般-2）第7413号
4. 事業規模 設立 1995年4月14日
資本金 300万円
完成工事高 155百万円（2020年4月～2021年3月）
従業員数 17名（2020年4月現在）
延床面積 神田事務所 29.7㎡
長浜事務所 69.8㎡
5. 環境管理責任者 代表取締役 藤中昭宏
環境事務局 総務部 藤中聖美
連絡先 TEL 088-831-0640 FAX 088-831-0661
Email a_fujinaka@f-dn.co.jp
URL <http://www.f-dn.co.jp>

あゆみ

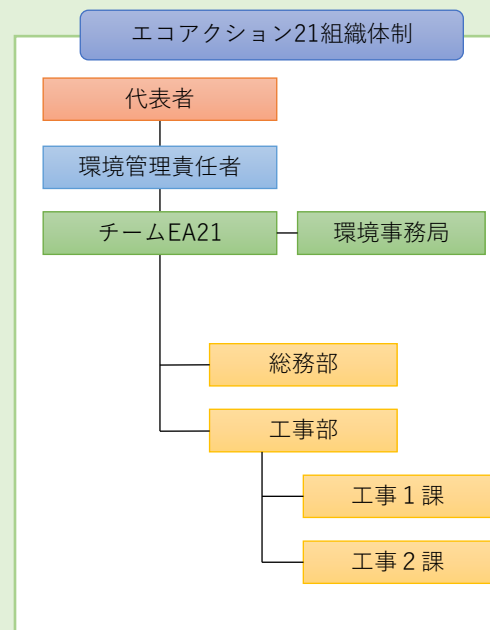
藤中電設のあゆみ

- 1995年 4月 有限会社藤中電設 設立
- 6月 電気工事業 許可取得
- 1996年 8月 機械器具設置工事業 許可取得
- 2006年10月 現在地へ社屋を移転
(神田事務所)
- 2017年 7月 高知市長浜に新事務所完成
(長浜事務所)
- 9月 藤中昭宏 代表取締役就任
- 10月 エコアクション21 認証取得
- 2020年 4月 SDGs 取組開始
- 現在に至る



□環境管理組織体制

代 表 者	藤中 昭宏
環境管理責任者	藤中 昭宏
チー ム EA21	松本 雅志
	又川 紘輔
	坂田 友和
	岡田 裕亮 森尾 之孝
環 境 事 務 局	藤中 聖美
総 務 部	藤中 恭子
工 事 部	梶原 将美



環境管理システム 役割・責任・権限表

代表者	<ul style="list-style-type: none"> ○環境経営に関する統括責任 ○環境経営システム実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ○環境管理責任者を任命 ○環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ○環境目標、環境活動計画を承認 ○代表者による全体評価と見直し実施 ○環境活動レポートの承認
環境管理責任者 (代表者兼任)	<ul style="list-style-type: none"> ○環境経営システムの構築、実施、管理 ○環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ○環境目標、環境活動計画を承認 ○環境活動の取組結果を代表者へ報告 ○環境活動レポートの確認
チームEA21	<ul style="list-style-type: none"> ○環境管理責任者の補佐 ○各工事や業務における環境活動の実施、指導 ○環境問題に関する勉強会の実施
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○環境管理責任者の補佐 ○環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ○環境目標、環境活動計画案の作成 ○環境活動の実績集計 ○環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ○環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ○環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ○環境活動レポートの作成、公開
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ○自部門における環境方針の周知、従業員への環境教育訓練実施 ○自部門に関する環境活動計画の実施、達成状況報告 ○自部門に関する緊急事態訓練の実施 ○自部門の問題点の発見、是正、予防措置の実施
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ○環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ○決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

対象範囲、レポートの対象期間と発行日

1. 対象範囲（認証・登録範囲）
有限会社 藤中電設（全社・全組織・全活動・全従業員）
2. 対象事業所
神田事務所：高知県高知市神田2231-5
長浜事務所：高知県高知市長浜1608-3
3. 事業活動
建設業（電気工事業、機械器具設置工事業）
4. レポート期間
2020年4月～2021年3月
5. レポート発行日
2021年6月
次回発行予定 2022年6月
6. レポート作成者
環境管理責任者 代表取締役 藤中昭宏



主な環境負荷の実績と目標

主な環境負荷の実績と目標

項目	単位	2018年	2019年	2020年
二酸化炭素排出量	kg-CO2	41,856	38,548	40,931
一般廃棄物排出量	kg	244	265	602
産業廃棄物	kg	6,676	0	0
水道水使用量	m3	152	166	170

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.651kg-CO2/kWh

環境目標と実績値

			2018年	2020年			2021年	2022年
			基準値	目標	実績	達成状況	目標	目標
燃料使用量	L	ガソリン	4,995	4,797	4,553	○	4,701	4,607
	基準年比			-4%	105%		-6%	-8%
	L	軽油	9,428	9,055	9,801	×	8,874	8,696
	基準年比		-4%	92%		-6%	-8%	
電力使用量	kWh		9,130	8,768	7,802	○	8,593	8,421
	基準年比			-4%	112%		-6%	-8%
CO2排出量	kg-CO2		41,856	40,199	40,931	×	39,395	38,607
	基準年比			-4%	98%		-6%	-8%
用水使用量	m3		152	146	170	×	143	140
	基準年比			-4%	86%		-6%	-8%
一般廃棄物排出量	kg		244	234	602	×	229	224
	基準年比			-4%	39%		-6%	-8%
産業廃棄物排出量	t		7	6.41	0	-	6.28	6.15
	基準年比			-4%			-6%	-8%
産業廃棄物再資源化率	%		100	100	100	○	100	100
グリーン購入量	%		100	100	100	○	100	100%
社会貢献活動	回		3	4	4	○	5	5
環境負荷の少ない工事件数	%		100	100	100	○	100	100%

達成率 (%) : 目標 ÷ 実績 × 100

[評価] ○達成 100%以上 △不十分 99%~90% ×未達成 90%以下

環境経営計画の取組結果と、次年度の取組計画

電力使用量の削減と節電



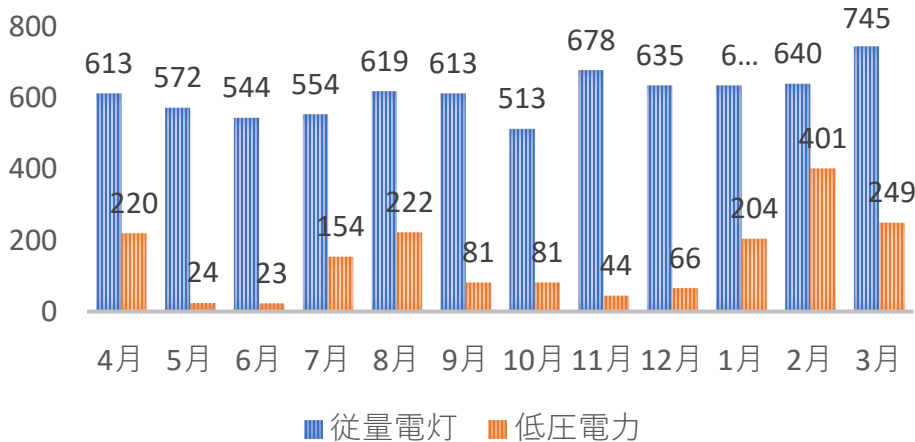
社内の節電意識向上

過去数年に渡って、全社をあげて節電に取り組んできました。社内各所のスイッチ付近に節電を呼びかける掲示をしたり、エアコン設定温度の周知徹底などを行ってきましたが、今年からはさまざまな対策をSDGsに紐づけて、社員の環境問題に対する意識啓発の取組を始めています。

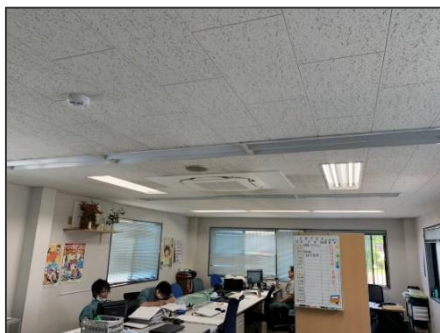
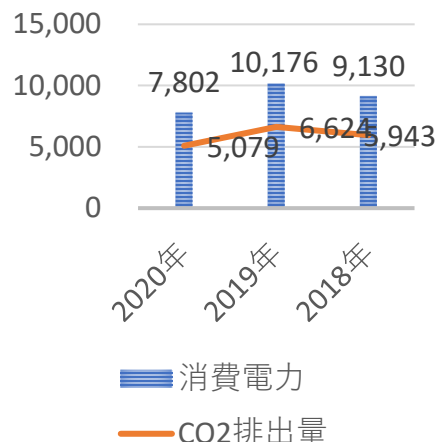


節電だけでなく、SDGsのルールに紐づけて明示することで社員の関心を高めます

毎月の消費電力 (kWh)



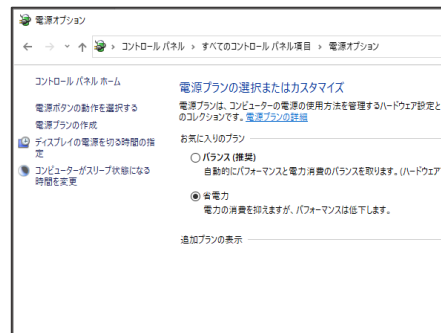
消費電力の推移 (kWh)



不要な照明の消灯



ENERGY STAR機器の導入



パソコンの省電力設定

来年度の取組

引き続き来年度も節電の呼びかけ、待機電力の削減やこまめな消灯などを周知していきます。夏場のエアコン使用前のフィルターの清掃、サーキュレーター及びUSBファンの活用も実施します。

駐車場や社屋の植栽も含め、神田事務所などはグリーンカーテンの実施を行い、ゴーヤだけでなくパッションフルーツなどの栽培にも挑戦していきます。

数値目標と実績	達成状況
目標8,768kWh → 実績7,802kWh 達成率112%	○
取組計画	達成状況
・ エアコンの温度設定 (冷房28°C/暖房20°C)	○
・ 事務所外出時及び昼休みの照明オフ	○
・ 未使用時のパソコン電源オフ	○
・ ウォームビス、クールビスの励行	○

使用燃料の削減



環境に配慮した車両導入による削減

昨年、営業車としてハイブリッドカーを導入したことにより、ガソリンの使用量については削減することができました。また今年度は尿素フリーによるクリーンで経済性の高いトラックを導入するなど、環境に配慮した設備投資を行いました。

ディーゼルエンジン&DPR-II **「平成28年排出ガス規制」に適合**
力強いトルクとクリーン性能を両立。

直列4気筒・ターボインタークーラー 総排気量：4.009L



DPR-II※ 全車、尿素水を使用せずに排出ガス規制をクリア

尿素フリーにより、メンテナンスの負担を軽減。クリーン、経済性、そして架装・積載性にも貢献。

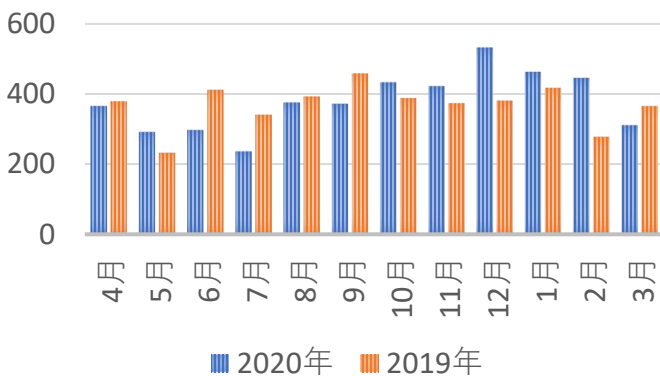
排出ガスの後処理では、DPR-II※を搭載し、尿素フリーを実現。マフラー側でも燃料添加を行うシステムによりNOxの浄化性能を向上させ、排出ガス規制をクリアしています。また、尿素水の補充が不要なことで、ランニングコストの抑制に貢献します。



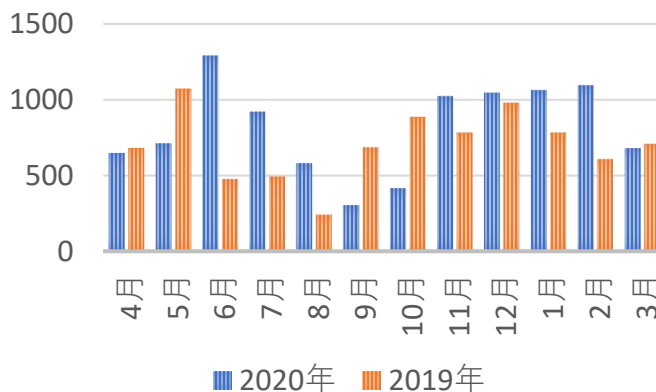
Point

尿素フリーにすることで、定期的な尿素補充の手間が無くなりました。ドライブレコーダーやバックモニターを導入することにより、運転手の負担も軽くなりました。

ガソリン使用量の比較 (L)



軽油使用量の比較 (L)



来年度の取組

来年度も引き続き、エコドライブ10をはじめとする環境に優しい運転に努めてまいります。また、車両の更新時期でもあるので、より環境に配慮した車両選びをするとともに、ドライブレコーダーなどの安全設備にも配慮します。

運転手の教育として、車両日報の記入と運転前点検を徹底し、経年劣化に伴うトラブルを未然に察知できるように目指します。

燃料消費量については、工事の内容や場所など環境に左右されることが多いので、単純比較ではなく、日々の運転や効率な配車計画を実施します。

数値目標と実績	達成状況
ガソリン使用量 目標 4797L → 実績 4553L 達成率 105%	○
軽油使用量 目標 9055L → 実績 9801L 達成率 92%	×
取組計画	達成状況
・急発進、急ブレーキをしない	○
・不要な荷物を積まない	○
・適切な配車計画の実施	○
・タイヤ空気圧の確認	○
・適切なメンテナンスの実施	○
・ハイブリッドカーの導入	○
・エコドライブ10の励行	○

水道使用量の削減



SDGsを意識づけた節水の呼びかけ

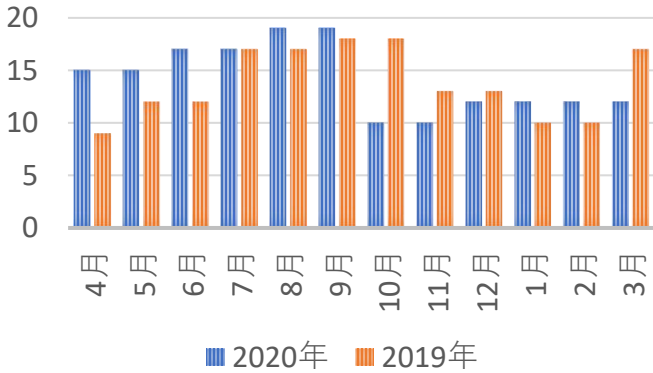
今年からは、SDGsへの取組開始に際して、よりSDGsを身近に感じてもらえるための節水標識を掲示しました。社内では、水を使用する場所全てに節水標識を掲示し、トイレには綺麗に使ってもらえるための意識啓発を行いました。

飲料用のウォーターサーバー導入と共に紙コップを廃止し、個人それぞれが洗って再使用できるマグカップを使っています。また、電気ケトルを使用しポットの保温時の電力削減にも取り組みました。

工事の状況により、社員の作業服を選択するための水道使用が増加しているため、節水を呼びかける掲示を追加しました。



水道使用量の比較 (L)



数値目標と実績

達成状況

用水使用量
目標 146m³ → 実績 170m³
達成率 86%



取組計画

達成状況

- ・手洗い時水を出しっぱなしにしない ○
- ・まとめ洗いの工夫をする ▲
- ・漏水点検を行う ○

来年度の取組

作業服の選択による使用水量については、工事の状況に左右される事が多く、その都度まとめ洗いや節水を心がけていきます。トイレについては節水リングを導入してその効果を実証してみたいと思います。

トイレや洗濯以外の用水として、夏季に雨水タンクを設置し、雨水の再利用を行います。



冬場に凍結による水道管破損があったため、定期的に屋外給水管の点検を実施しました。

廃棄物排出量の削減

可燃ごみ排出量が去年の2倍に

今年は可燃ごみ排出量が去年の2倍になるという結果になりました。これについてはいろんな要素が絡んでくると思われます。

新たな取り組みとしては、現場持ち出し用のゴミ箱を作成し分別と3Rの周知。ペール缶を再利用して屑鉄など廃棄物の一時保管を行いました。社内の廃棄物置場には3R活動とSDGs意識啓発の掲示を行い、使用済み木材置場を整理し、長さごとに分別したりするなど再利用に務めました。

ダンボールの増加については、工事用資材等のネット購入増加により配送時に梱包材として使用されていますが、再資源化100%の処理場において再資源化処理を行っています。



現場持ち出し用ゴミ箱の作成



ペール缶の再利用



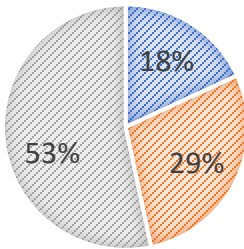
SDGsと3R活動の励行



使用済み木材の再利用

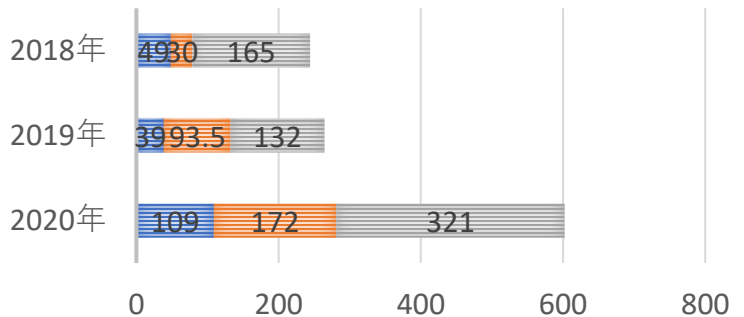
一般廃棄物の内訳 (%)

■ ダンボール ■ コピー用紙 ■ 可燃ごみ



排出量の推移 (kg)

■ ダンボール ■ コピー用紙 ■ 可燃ごみ



来年度の取組

排出量推移グラフを見ると、可燃ごみ排出量が倍増しています。現場からの持ち帰りや梱包資材など原因は考えられますが、来年度からは通常の可燃ごみと廃プラスチックに分別し、排出内訳を調査します。

また、今年度から引き続いて地域組合によるマイバッグ促進キャンペーンに参加し、マイバッグの励行だけでなく、レジ袋を貰った場合の有効活用や再利用についても取り組んでいきます。

あ、レジ袋いりません。
僕、マイバッグが大好きなんです。



勇気持ッぞ！
マイバッグキャンペーン



3R活動の励行により、コピー用紙の再利用を促進します。社内だけでなく作業場所でも分別を徹底します。

数値目標と実績	達成状況
一般廃棄物排出量 目標 234kg → 実績 602kg 達成率 39%	❌
取組計画	達成状況
・コピー用紙の裏側の再利用	○
・弁当トレイの各自持ち帰り	○
・ごみ分別の徹底	○

産業廃棄物排出量の削減

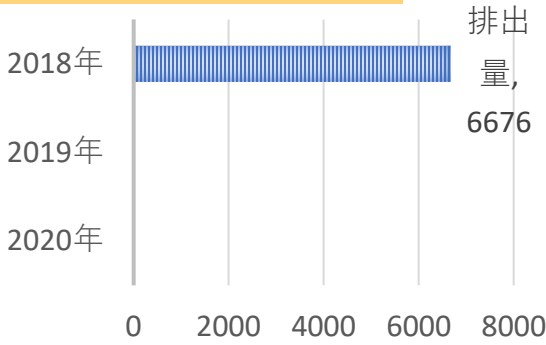


今年度の産業廃棄物排出はゼロ

今年は客先による廃棄物処理などが多く、自社での産業廃棄物排出量はゼロとなりました。今後、排出量が増加する可能性もありますので、その際は適切に処理を行います。

数値目標と実績	達成状況
産業廃棄物排出量 0	—
取組計画	達成状況
・マニフェスト発行による適正処理実施	—

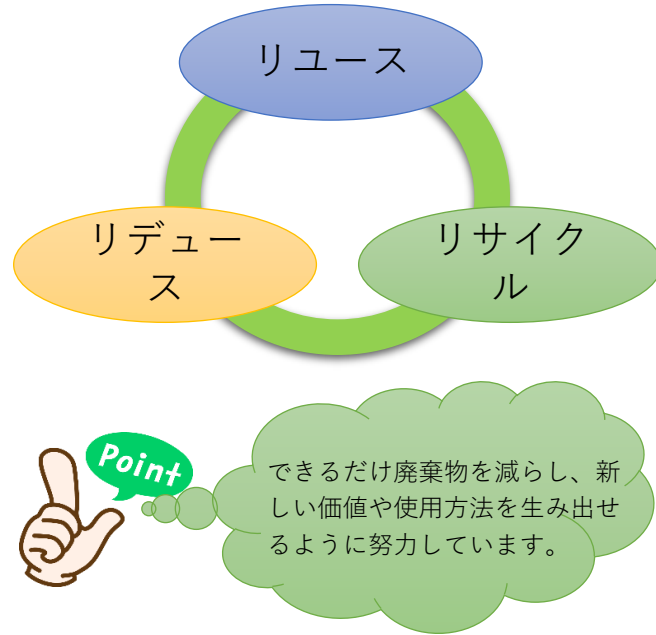
排出量の推移 (kg)



産廃置場と金属葛置場

3 R 活動の推進

工事現場や事業所で発生する物はできるかぎり再使用を心がけています。また最近では廃棄する物を使って新たな価値を生み出す活動も行っています。



廃棄ペール缶を再利用した汚水ポンプ



廃材を再利用したミーティングテーブル



廃棄ペール缶を再利用したゴミ箱

3 R から 5 S への活動展開

今年は 5 S 活動として具体的な活動はしてきませんでした。しかし一般廃棄物排出状況の調査も含めて、来年からは段階を追って 3 R 活動を 5 S 活動に展開していきます。

社内倉庫の整理を含め、使用した資材は決められた場所に返却し、保管する資材の名前を棚に明示するなどの対策を始めています。

1 階工具棚の様子



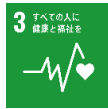
緑化活動

会社敷地の花いっぱい活動展開中！

去年から始めた敷地の緑化活動ですが、今年も継続して行っています。

Point

今年もたくさんの花が咲いて目を楽しませてくれました。花のお世話は主に、総務部で実施しています。



数値目標と実績	達成状況
社会貢献活動	○
取組計画	達成状況
・各協会ボランティア活動への参加	○
・会社敷地内への花いっぱい活動	○
・会社周辺道路の清掃	○



長浜事務所の正月飾り



緑化活動開始



季節の花々が咲いています



毎朝の出勤時に楽しませてくれます。

社会貢献活動

社会貢献活動として、今年はコロナ禍で所属協会のボランティア活動は減少していましたが、かわりに周辺道路の清掃や草刈りなどの活動を行いました。



周辺道路清掃活動



高知県地球温暖化防止県民会議

おらんくのストップ温暖化宣言文

私たちは、地球温暖化防止に向けての取り組みを実施します。

1. 環境関連法及び条例等を遵守します。
2. 建設工事に関わる各段階において、環境負荷の少ない事業活動を行います。
3. 社用車両の燃料使用抑制に努め、二酸化炭素排出量を削減していきます。
4. 省エネルギー・節電に努め、二酸化炭素排出量を削減していきます。
5. 建設工事及び事務所における廃棄物排出量の削減及びリサイクルを推進します。
6. 建設工事及び事務所における節水活動により、水使用量を削減します。
7. 環境に配慮した物品を調達する「グリーン購入」を推進します。
8. 環境に配慮した工事を推進します。
9. 道路清掃及び環境美化活動に積極的に取り組みます。
10. 環境活動レポートを毎年作成し、外部公表します。
11. これらの環境方針は社員全員に周知徹底し、一丸となって取り組みます。

有限会社藤中電設
代表取締役 藤中 昭宏

地球温暖化防止に向けて、取り組みの実施を宣言していることを認めます。

令和5年3月31日

高知県地球温暖化防止県民会議 事業者部会

おらんくのストップ温暖化宣言文

来年度の取組

引き続き敷地内の緑化活動を実施し、神田事務所でのグリーンカーテン活用ではゴーヤだけでなくパッションフルーツの栽培等、見て食べて楽しめるグリーンカーテン作りに挑戦します。

また、社会貢献活動としては減少しつつあるものの、状況が許すかぎり積極的に参加し、地域の一員としての責任を果たしていきます。

環境に配慮した工事



環境対策型クレーンの使用

弊社の工事では、低騒音型及び排出ガス基準適合車を選定し使用しています。また近年は環境対策型クレーンを使用するなど、工事場所の周辺環境へ配慮しています。

また、絶縁油などの取扱時には防油堤やオイル吸着マットを利用し、もし油をこぼした場合には迅速に対応できる様に入念に準備を行っています。



環境対策型クレーン



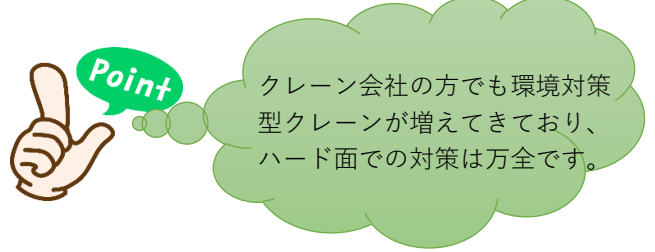
低騒音型発電機の購入



油入機器の抜油作業



隣地への飛散防止対策



環境教育

毎月の定例会では、引き続き安全・品質・環境に関する社内勉強会を開催しています。今年はエコアクションだけでなく、SDGsについても積極的に社外勉強会に参加し、学んだことを社内に展開しました。

また、今年の定例会からはプロジェクターを使用し、会議資料のペーパーレス化、動画などを活用したインタラクティブな勉強会を実施するとともに、新入社員を対象にした工具の使い方教室や、施工技術の継承などにも注力してきました。これらの取り組みについては今後も継続していきます。



社内勉強会



毎朝の作業前ミーティング



定例会（プロジェクター使用）



新入社員教育

来年度の取組

来年度からは、エコアクション活動の充実とともにSDGsの社内浸透を目的として、定例会における勉強会を充実させていきます。また、社外のSDGsアドバイザーを利用するなど様々な教育施策を行います。

環境に配慮した工事については引き続き環境対策型重機の使用を徹底し、現場周辺の環境パトロールなどをお客様と共に、記録として残していきます。

数値目標と実績	達成状況
環境負荷の少ない工事	○
取組計画	達成状況
・作業時の騒音及び粉塵対策	○
・低騒音、排出ガス対策型重機の使用	○
・リサイクル材、県産品、間伐材などの使用	○
・工事開始前の環境パトロール及び点検協議	○



エネルギー使用量の中長期目標（原単位）

			2018年	2020年			2021年	2022年
			基準値	目標	実績	達成状況	目標	目標
燃料使用量	L	ガソリン	30.09	28.90	29.37	△	28.32	27.75
	基準年比			-4%	98%		-6%	-8%
	L	軽油	56.80	54.55	63.23	×	53.46	52.39
	基準年比		-4%	86%		-6%	-8%	
電力使用量	kWh		55.00	52.82	50.34	○	51.76	50.72
	基準年比			-4%	105%		-6%	-8%
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂		252.14	242.16	264.07	△	237.32	232.57
	基準年比			-4%	92%		-6%	-8%
用水使用量	m ³		0.92	0.88	1.10	×	0.86	0.85
	基準年比			-4%	80%		-6%	-8%

※原単位：百万円（売上高155百万円）

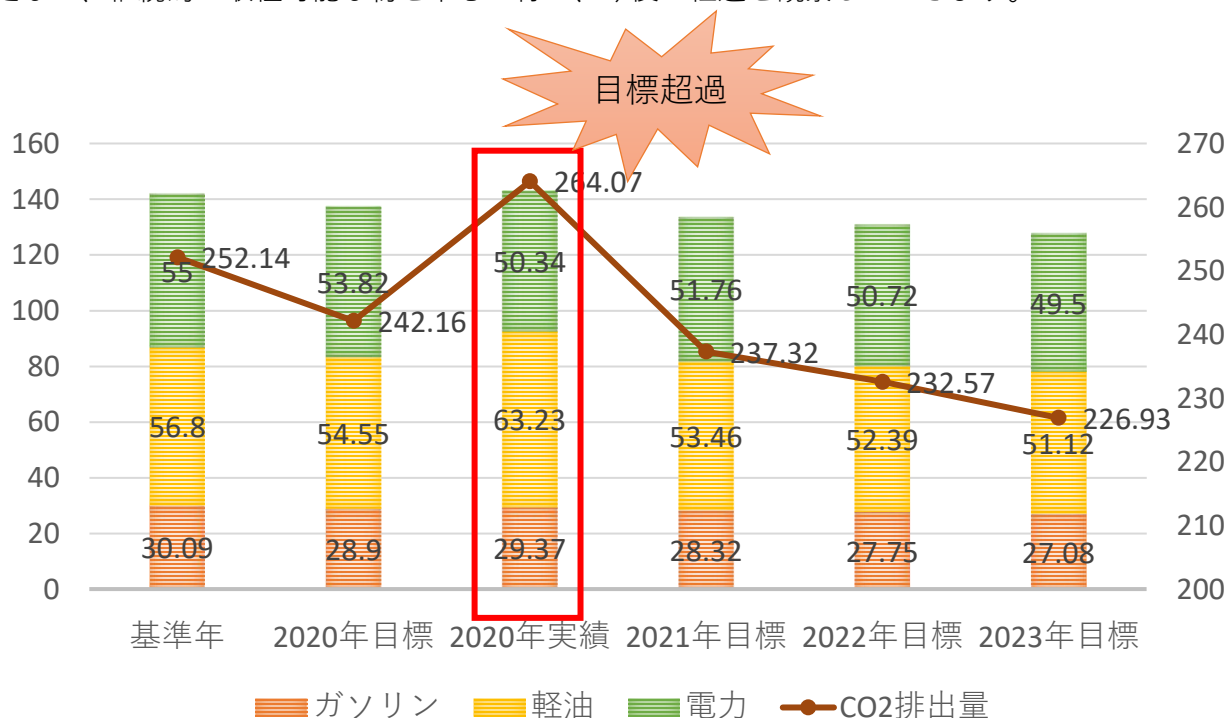
達成率（%）：目標÷実績×100

[評価] ○達成 100%以上 △不十分 99%~90% ×未達成 90%以下

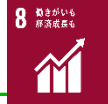
原単位目標ではさらなる取組が必要

原単位目標の数値では軽油使用量が基準年を上回る結果となり、来年度の目標達成のためにはさらなる取組が必要と思われます。しかし、軽油使用量については工事場所によって現場までの移動距離も変わり、単純に売上百万円あたりでの原単位での比較は難しいと思われます。

今後は適切な車両整備、エコドライブ10の推進、車両更新時における環境に配慮した車両の選定など、継続的に取組可能な物を中心に行い、今後の経過を観察していきます。



その他の取組



BCP（事業継続計画）の作成

令和3年2月、弊社は緊急災害時等の事業継続計画としてBCP文書の第一版を作成しました。今後はBCP文書を元に緊急災害時に備えた対策を行っていきます。

弊社の工事現場は山間部が多く、緊急時に安全に避難できるかどうか、素早い復旧のために資材を運搬できるかが課題でした。各工事現場に避難場所のQRコードを掲載した避難計画書を掲示し、災害発生時は素早く行動できる体制づくりを目指しました。

(有)藤中電設 緊急時避難計画書

工事名:
工期:
現場名:

有(有)藤中電設
〒100-8311 東京都千代田区千代田 1-1-1
BCP推進責任者及び情報連絡担当
藤中 昭彦 : 090-2789-5004
藤中 博史(副) : 090-8697-0335
現場責任者

事業継続計画 (BCP)

090-8697-0335 藤中(副)

完成済

避難所

状況により

会社連絡

避難

避難所

大橋発電所

急傾斜地崩壊危険箇所
土石流危険渓流
浸水想定区域
砂防指定地

急傾斜地崩壊危険区域

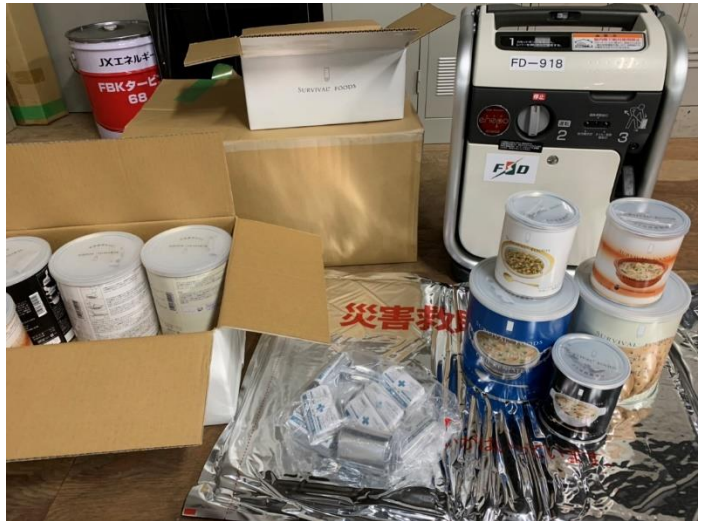
推定被害	数
推定被害	7
浸水被害・浸没	なし
浸水被害	なし
指定河川洪水・浸水	なし
土砂災害	土砂災害、急傾斜地崩壊危険箇所、砂防指定地
避難所	
備考	(有)急傾斜地崩壊危険区域

BCP（事業継続計画）と避難計画書

災害時備蓄品の充実

事業継続計画の一環として、災害時の備蓄物資を充実させました。災害時弊社社長浜事務所は事業継続の拠点となるため、非常用電源として発電機を常備し、災害時救助毛布や25年間の賞味期限を持つサバイバルフードを弊社2階倉庫に備蓄しています。

また、非常災害時の緊急連絡体制の確立や避難計画の周知、避難場所の確認など準備を行いました。



緊急事態対応訓練の実施

毎年防災訓練を実施していますが今年からは避難計画書を元にして、緊急時の流れやQRコードから避難場所マップを呼び出す訓練などを実施しました。

今後の課題として、社内において緊急時連絡体制の訓練や避難時の時間計測、実際の被害を想定して事業継続のための具体的な流れを一通り練習するの必要を感じました。



QRコード読取訓練



消火訓練

環境関連法規

①環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果

法規名	適用条項	具体的内容	点検頻度 測定時期	担当者	遵守状況	確認日
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	第3条	○事業者の責務 事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理	必要時	環境管理責任者及び各工事担当者	遵守	令和3年3月31日
	第7条の13項	○一般廃棄物収取運搬基準に従った収集運搬表示、書面備付義務	必要時		遵守	令和3年3月31日
	第12条	○産業廃棄物の事業者の処理 産業廃棄物の委託契約	必要時	環境事務局	遵守	令和3年3月31日
	第12条三	○産業廃棄物管理票（マニフェスト）の交付	廃棄物排出時	環境事務局	遵守	令和3年3月31日
	第12条三7項	○マニフェスト交付状況報告書の作成及び都道府県知事（高知県知事）への提出	年1回 毎年6月末	環境事務局	遵守	令和3年3月31日
	規則第7条の三	○保管場所の表示 見易い箇所に掲示板を設置（縦60cm以上×横60cm以上）	必要時	環境管理責任者	遵守	令和3年3月31日
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）	第5条	建設資材廃棄物の発生抑制、分別及び建設資材廃棄物の再資源化等費用の低減努力 建設資材廃棄物の再資源化により得られた建設資材を使用する努力	必要時	各工事担当者	遵守	令和3年3月31日
資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）	第4条	○土砂、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、木材等の減量化及びリサイクル	必要時	各工事担当者	遵守	令和3年3月31日
騒音規制法	第14条	特定建設業の実施の届出（建設作業開始7日前までに市町村長に届出）	必要時	各工事担当者	遵守	令和3年3月31日
振動規制法	第14条	特定建設業の実施の届出（建設作業開始7日前までに市町村長に届出）	必要時	各工事担当者	遵守	令和3年3月31日
水質汚濁防止法	第14条二の二	事故等により油を含む水が公共用水域に排出又は地下等に浸透した場合の対応（事故の状況及び講じた措置の概要を県知事に報告）	必要時	環境管理責任者	遵守	令和3年3月31日
浄化槽法	第10条第11条	○年4回の浄化槽の保守点検、清掃実施 ○年1回の水質検査実施	年1回	環境管理責任者	遵守	令和3年3月31日
高知県環境基本条例	第6条	○事業者の責務 公害防止、自然環境保全、廃棄物の適正処理	必要時	環境管理責任者	遵守	令和3年3月31日
高知市環境基本条例	第5条	○事業者の責務 公害防止、自然環境保全、廃棄物の適正処理	必要時	環境管理責任者	遵守	令和3年3月31日
電気工事業法		○電気工事の適正な実施	必要時	各工事担当者	遵守	令和3年3月31日
建設業法		○建設工事の適正な実施	必要時	各工事担当者	遵守	令和3年3月31日

次年度の環境活動計画

期間：令和3年4月～令和4年3月

※次年度については基本的に本年度の内容を継続して実施

※★印は来年度からの新しい取組

項 目	活 動 内 容	担 当 者	期 限
CO2排出量削減	急発進、急ブレーキをしない	全社員	令和4年3月
	不要な荷物を積まない		
	適切な配車計画の実施		
	タイヤの空気圧の確認		
	適切なメンテナンスの実施		
	★運行前点検と車両日報の徹底		
	エコドライブ10の励行		
電力使用量削減	エアコンの温度設定 (冷房28℃/暖房20℃)	全社員	令和4年3月
	事務所外出時及び昼休みの照明オフ		
	未使用のパソコンの電源オフ		
	★使用前のフィルター点検		
	★グリーンカーテンの活用		
★サーキュレータ、USBファンの活用			
用水使用量削減 (排水量削減)	手洗い及び水使用時にしっばなしにしない	全社員	令和4年3月
	まとめ洗いの工夫をする		
	漏水点検を行う		
	★節水リングの導入		
廃棄物削減	★雨水タンクの設置	全社員	令和4年3月
	コピー用紙の裏側を再使用する		
	弁当トレイは各自で持ち帰る		
	ゴミ分別の徹底		
	★マイバッグキャンペーンへの参加		
産業廃棄物	マニフェスト発行による適正処理実施		令和4年3月
グリーン購入	グリーン購入法適合商品を優先して購入	全社員	令和4年3月
	コピー用紙は再生紙を購入する		
	事務用品は詰替えできる商品を購入		
環境負荷の少ない工事実績	作業時の騒音及び粉塵対策	全社員	令和4年3月
	低騒音、排出ガス対策型重機の使用		
	リサイクル材、県産品、間伐材などの使用		
	工事開始前の環境パトロール及び点検協議		
社会貢献活動	各協会ボランティア活動への参加	全社員	令和4年3月
	会社敷地内への花いっぱい活動		
	会社周辺歩道の清掃		

全体評価と見直し



環境管理責任者の報告及び改善提案

■定期見直し
□臨時見直し

作成者：代表取締役 藤中昭宏
作成日：令和3年5月20日

【取組状況の評価結果】

- ①環境関連法規制などの遵守状況
令和3年3月31日に定期評価を実施した結果、遵守されております。
- ②問題点の是正処置及び予防処置の状況
令和2年4月1日～令和3年3月31日の間、是正処置予防処置となるものはありませんでした。
- ③前回までの代表者の指示事項への対応
前回に引き続き、実績データを蓄積しながら適切な目標を計画します。

<改善提案>
特になし



目標・環境活動計画の達成状況

目標項目	目標値 達成状況	活動計画 達成状況	コメント (目標値、活動計画に対するコメント)
ガソリン使用量の削減	○	○	総量目標値および活動計画は達成できたが、原単位目標では未達成となり、今後の経過を観察する
軽油使用量の削減	△	○	活動計画は達成できたが、総量目標ならびに原単位目標については未達成となり、見直しが必要である
灯油使用量の削減	—	—	使用なし
電力使用量の削減	○	○	温度設定など節電対策を含めた活動計画達成により、目標を達成することができたので、今後も継続する
CO ₂ 排出量の削減	△	○	活動計画は達成できたが、目標については達成できなかったため、今後の経過を確認する
用水使用量の削減	×	△	社員の洗濯量が増え目標は達成できなかった。まとめ洗いなどの工夫をできるだけ取り入れる
一般産業廃棄物排出量の削減	×	○	資材梱包材の増加など排出量は達成できなかったが、再資源化処理できている
産業廃棄物排出量の削減	—	—	排出なし
環境負荷の少ない工事の増加	○	○	適切に達成できた
グリーン購入	○	○	適切に達成できた
社会貢献活動への参加	○	○	適切に達成できた

<改善事項>

総量目標、原単位共に未達成の項目が見られる。今後の経過を観察するとともに、新たな活動計画の実施など対策を行うと共に、来年の結果を元に基準値の見直しを行う。

周囲の変化の状況と問題点是正

①外部コミュニケーション記録より
令和2年4月1日～令和3年3月31日の間、
外部からの苦情はありませんでした。

②環境関連法規制等の動向他
改定はありません。

<改善提案>
特になし

・その他問題点の是正
特になし

代表者による見直し

【環境方針】 変更の必要性：なし

環境方針は社員に浸透かつ、日頃の業務活動での意識も見られるので、変更の必要性はない。

【環境目標・環境活動計画】 変更の必要性：あり

環境教育及び環境方針の浸透により、各工事での意識レベルも向上が見られる。引き続き環境教育を実施し、結果を環境活動計画にフィードバックする。

原単位目標未達成の項目について、今後の経過を観察する。

【環境経営システム】 変更の必要性：なし

有効に機能しており変更の必要はない。
常にPDCAサイクルを意識して取り組む。



総括

今年度より、エコアクションに加えてSDGsの取組を開始した。SDGsの17のゴールについては、距離感もありなかなか社員ひとりひとりが腹落ちするような勉強会とはならなかったが、今後も引き続き継続していく。

環境目標については去年に引き続いて未達成の項目があり、次年度の結果によっては基準値の見直しが必要だが、環境方針含め大枠については問題なく稼働している。

各数値を引き続き把握するように努力する。



—安全で豊かに暮らせる社会のために—

有限会社

藤中電設



認証番号0012347